平成26年度第1回向日市総合計画等外部評価委員会

議事要点録

○　日　　時　　平成26年8月18日（月）午後1時30分から3時15分まで

○　場　　所　　向日市役所3階　大会議室

○　出 席 者　　（委　員）中村委員、齋藤委員、香本委員、原田委員
（向日市）久嶋市長
（説明員）

重点施策	担当部局		出席者	
市民交流の推進	市長公室	秘書広報課	水上次長	松本課長補佐
	市民生活部	市民参画課	小田次長	八木主幹
市街地緑化の更なる推進	建設産業部	公園住宅課	長谷川課長	臼杵係長

（事務局）今西市長公室長、水上市長公室次長兼秘書広報課長、
野田企画調整課長、長谷川課長補佐、三好主任

○　傍 聴 者　　なし

○　内　　容　　下記のとおり

１　市長あいさつ

２　議題

（１）委員会の進め方について

資料1「平成26年度向日市総合計画等外部評価の実施方針について」、資料2「平成26年度向日市総合計画等外部評価委員会　評価対象施策」、資料3「平成26年度向日市総合計画等外部評価委員会　評価実施日程及び時間割」に基づき、事務局から本年度の外部評価の実施方針、評価対象施策及び評価実施日程を説明した。

（２）重点施策評価

①市民交流の推進

②市街地緑化の更なる推進

【意見の要旨】
①市民交流の推進

担当者：【施策の概要について説明】

委　員：向日市まつりの入場者数は、向日市民と向日市民以外それぞれの人数がわかるのか。
委　員：入場者数はどのようにカウントしているのか。受付を設けて入場整理をしているのか。
担当者：入口 2 か所で計測しており、受付などを設けているわけではない。市民と市民以外に分けた計測はしていない。
委　員：「5 万人のふれあい」というフレーズは初回から変わっていないが、これからも変わらないのか。
担当者：初回開催時の人口が 5 万人に近かったため、このフレーズとなった。これからも変わらない。ただし、サブテーマが入る年もある。
委　員：ステージ企画をもっと活性化し、規模の大きいものにする予定は。
担当者：スペースや人の流れなどの兼ね合いがあり、なかなか難しい。数年後に控える開催 40 回目の際には、大々的にできればという思いはある。
委　員：まつりのパンフレットに掲載されている広告主は地元産業者が多いようだが、大企業などからも出してもらえないか。ブースなどはどうか。
担当者：向日市商工会が向日市まつり実行委員会の中の大きな団体であり、広告や店舗を出していただいている事業者は、商工会に加盟されているところが中心になっている。大企業からは、広告への協力はできても、ブースを出すことは難しいと言われている。
委　員：ウォーキングは最近流行しているのか。
担当者：まち中を歩かれている方は多い。ウォーキングイベントなどを市民団体が企画していることもある。史跡巡りなど、ウォーキングをテーマにしたイベントも多い。
委　員：ウォーキングコースには、案内表示があるのか。
担当者：イベントごとにコースを考えているため、案内表示はない。コンパクトな市であるため、コースを変えるなどの工夫をして、何度来ても楽しんでいただけるよう趣向を凝らしている。
委　員：綾部市は敷地が広大な分、巡るポイントがたくさんあるという点で、向日市で開催するより有利なのか。
担当者：運営側の有利不利はない。それぞれが、たくさんの方に来てもらえるよう工夫している。
委　員：向日市で開催した平成 25 年度は、向日市民の参加者が 190 人であったのに対し、21 年度と 23 年度の参加者が少ないのはなぜか。
担当者：平成 24 年度に「向日市健康ウォーク」を開催するまでは、向日市まつりの中でウォーキング大会を開催していた。綾部市の方の受け入れや見送りなどに

人員を割いていたため、人数が少なくなっている。

委　員：昨年のウォーキング大会に参加したが、距離の短いコースでも歩きがいがあった。ゴール地点では抽選会があるなど楽しめたし、出店で軽食が食べられたことも良かった。

担当者：ゴール後に、周辺の史跡などを散策して楽しまれる方もおられた。

委　員：交換学生事業は、どのような組織が窓口となっているのか。昨年度は中止とのことだが、なぜか。

担当者：向日市は「向日・サラトガ姉妹都市協会」が、サラトガ市は「サラトガ姉妹都市協会」がそれぞれ窓口となって交換学生事業を実施している。いずれも民間団体である。昨年度はサラトガ市側の参加希望者がいなかった。

委　員：交換学生事業の支援方法や内容などはどのようなものか。

担当者：往復の飛行機代は学生負担となるが、現地での宿泊費や食費は必要ない。また、協会・委員会から補助がある。

委　員：いつごろ行くのか。現地では学校に登校するのか。

担当者：夏休みを利用した 2 週間で行く。学校に行くのではなく、ホームステイ経験をする。

委　員：事業の広報方法は。また、基本的に本人負担の事業なのか。

担当者：市の広報紙に記事を掲載し、募集している。かつては市の事業として実施していたが、現在は協会事業に切り替えており、市は後方支援を担当している。

委　員：国際交流の促進と言う点では、事業展開が課題であると思うが。

担当者：特に中国については、交流事業を始めた頃と状況が大きく変わっている。従来型の交流が難しく、他市でも草の根交流になりつつある。

委　員：課題に挙げている「組織の解散」とはどういうことか。

担当者：杭州市との市民交流の中核母体であった向日市日中友好協会が、平成 23 年度に解散したということである。

委　員：サラトガ市がシリコンバレーのベッドタウンであることや、箱根ガーデンでのイベントを熱心にやっておられることをもう少し情報提供し、PR の仕方を工夫すれば、興味を持つ人が出てくると思う。企業や経営者は、メリットを打ち出せば興味を持つ。

委　員：30 年前に決めたことを、そのまま続けてきているように思う。時代の変化についていけていないのではないか。抜本的に見方を変える必要がある。

委　員：向日市も「京都」だということをもっとアピールすべきである。

担当者：お互いの情報の出し方が変わっていないので、時代に合った展開が必要だと考える。

委　員：取り組み自体の素地はいいので、地元の活性化とオーバーラップしていければよい。

委　員：留学生に上手に協力してもらえればよいと思う。文化交流だけでなく、多方面で交流していければいいのではないか。

委　員：語学留学以外にも、ニーズはたくさんあると思う。京都ブランドも使える。

【判　定】

①　実施手法　：　Ｂ（委員３名がＢ、１名がＡ）

②　進行状況　：　Ａ（委員全員がＡ）

付帯意見：これまで長く続けてきた有意義な取り組みであるので、もう少しアイディアを出して、時代に合った方法で進めてもらうことを期待する。

②市街地緑化の更なる推進

担当者：【施策の概要について説明】

委　員：公園の雑草対策はどのようにしているのか。

担当者：シルバー人材センターに除草業務を委託している。市内の公園のうち 40 か所は、自治会と維持管理契約を結んでおり、「自分の地域の公園は自分たちできれいに」という意識を持ってもらっている。

委　員：公園を造っても、雑草なのか芝なのか分からない状態になっていることがあり、もったいない。

担当者：年間を通して維持管理の業務委託をしており、その他、シルバー人材センターにも作業依頼している。絶えずきれいになっているかというと難しい状況である。

担当者：市職員も公園パトロールを実施し、雑草の生えない公園をめざしている。

委　員：取組事業点検シートの進捗状況判定がＤであるが、どのような理由か。

担当者：向日市は人口密度が非常に高く、限られた宅地の中で緑化を図ろうとすると厳しい面がある。住宅建築の際に緑化をお願いしているが、確保は難しい状況である。さらに継続して意識の高揚を図っていくしか方法がない。

担当者：一般宅地の開発に係る部分は、敷地面積 10%の緑化ということでまちづくり条例で協議し、緑化を図っていただく。既存の住宅の方については、緑化園芸教室や花苗の配布などを通じ、意識啓発を図っている。

委　員：点検シートに記載している緑地率の最終目標値は、市全体の値か。

担当者：市全体での、生産緑地、公園、緑地を含めた比率である。市街化区域内の生産緑地は減っていく傾向にあり、その対策についても検討している。また、ボール遊びができる公園がほしいという声もお聞きしているので、一定のまとまった公園はぜひとも確保したい。その中でまた更に緑化ができれば、ということが、希望でもあり、目標でもある。

委　員：具体的にこういう場所にほしい、という声はあるのか。

担当者：場所の特定はないが、子どもが自転車で行ける範囲で、ボール遊びができればと言われている。市内には 114 か所の公園があるが、場所が狭いことと利

用者が多いことから、ボール遊びを禁止しているところがほとんどである。ボール遊びをするには、放課後の学校施設を利用いただくしか方法がない。野球ができるほど広くなくても、せめて小学校低学年までの子どもがボール遊びできるようなスペースは確保したい。

委　員：資料にある「洛西口さくら公園」「洛西口つつじ公園」もボール遊びは禁止なのか。

担当者：禁止である。この 2 公園は区画整理事業で寄贈を受けており、協議の結果、緑地率 50%以上を達成している。今後も公園設置の機会があれば、緑を多く取っていきたいと思う。

委　員：向日市には「市の花」はあるのか。

担当者：市民の花はひまわり、市民の木は桜である。ひまわりは写生大会なども開かれている。桜は、西向日一帯に街路樹として植えられている。

委　員：福山市では、企業も協力し、20 年くらいかけて「ばらのまち」として取り組んでいる。シンボリックなものがあれば関心が高まるのではないか。

担当者：向日市では、休耕農地を利用して「ひまわり畑」を造っている。

委　員：花の苗を植えているのは公園だけなのか。道路沿いなどに植えてある花も同様の取り組みか。

担当者：利用頻度の高い公園に何鉢か配布し、町内の方に植えていただいている。また、ポケットパークなどに、市職員が直接植えている場合もある。

委　員：なぜパンジーやビオラなどの 1 年草を選ぶのか。

担当者：比較的長持ちすることと、維持管理のしやすさから選んでいる。

委　員：近所のポケットパークには、毎回違う 1 年草の苗が植えられている。花を育てる側からすると、1 年中緑があり、管理がしやすい多年草にした方がよいように思うが、どうか。

担当者：苗の配布には、緑の啓発の意味合いがあり、植えてもらうことも啓発のひとつである。配った後、植えっぱなしでは啓発にならないので、少しでも手を入れてもらおうと考えている。花苗を配布している公園は、きれいに保とうという意識が高い。水やりは自治会が主体になって実施しており、自発的に草引きなどもしてもらっている。

委　員：少し花があるだけで、防犯対策にもなると聞く。

担当者：花のあるまちは、犯罪発生の比率が大幅に違うようだ。

委　員：育てようとすると手間もお金もかかるが、「人の手が加わっているまちだ」という意識づけになる。

委　員：小さい市なので、商工業者や小学校などと交流していくとうまくいくのではないか。

担当者：夏休みの時期に、小学生が朝顔を植えている。夏休み時期以外にも、花を変えて、若い世代から緑に親しむことができるよう考えたい。特に、家で食べられるものができれば家庭でも楽しめる。

委　員：町内会や自治会で取り組むことに課題はないのか。

担当者：高齢化などの課題はあるが、現在維持管理業務委託に入っていない自治会な

どに対して機会あるごとに話をしており、加入数を増やせるよう啓発をしている。

担当者：維持管理の委託金も、ごみ袋やほうき代程度でしかない。しかし、集まることによって町内のコミュニティができるので、継続したいと思っている。

委　員：公園機能だけでなく、防災機能も備え、その意識も高めることができるような場所はあるのか。

担当者：先ほどお示しした洛西口さくら・つつじ公園の近くある寺田東公園には、かまどベンチがある。今後、他の公園にも増やしていく予定である。

委　員：防災機能があると、いざという時に公園が役立つ、という意識が身に付く。

担当者：使う機会がない方がよいが、いざという時に実際に使用するのは町内の方なので、使い方を覚えてもらう必要がある。

【判　定】

① 実施手法　：　Ａ（委員全員がＡ）

② 進行状況　：　Ａ（委員全員がＡ）

付帯意見：緑化は今すぐ結果の出るものではない。何十年も先のことを考えてやらなければならないということを視野に入れ、樹木などが育った後のことも考えて前向きに進めてほしい。